

(1) 単元名 さんしーぼっちゃたいかいをひらこう

(2) 単元の目標

- ・ルールを守って協力して楽しく活動に取り組むことができる。
- ・聞き方のポイント（相手を見て、うなずきながら、最後まで）、伝え方のポイント（はっきりと、一つずつ）に気をつけて聞いたり話したりできる。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領では自立活動の目標を以下のように定めている・

個々の児童または生徒が自立を目指し、障害による学習上の又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養いもって心身の調和的発達の基盤を培う。

また、自立活動の内容3「人間関係の形成」を次のように定めている。

- (1) 他者との関わりの基礎に関すること。
- (2) 他者の意図や感情の理解に関すること。
- (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。
- (4) 集団への参加の基礎に関すること。

本単元では、特に(2)(4)について重点をおき指導をしていく。集団に参加するためのきまりや手順を理解して、チーム全員でルールを守って協力して活動することで、楽しく取り組めることに気付かせたい。

(3) 教材のとらえ

本教材は、さくら級全体で何度か実践している活動である。さくら級全体で行うときには、6つのグループに分かれ勝敗を決めている。司会、始めの言葉などの係もグループで行い、他のクラスの子供たちとの交流を深め、協力や協調も学んでいる。「さくらいボッチャ」と名付けているこの活動は、本当のボッチャと違いルール、やり方を子供たちに分かりやすいものにしていて、子供たちが安心してできるものになっている。少しずついろいろな面で変化をしてきているが、繰り返し続けることで子供たちが見通しをもってできる活動で、安心感に繋がっている。何より学年、性別、個性がそれぞれ違う子供たちが同じように参加できる活動である。今回は、年度当初ということで全体で行う前にクラス対抗で行うことにした。今回の学習で協力して取り組むことや他者を応援する楽しさに気付けるようにしていきたい。

(4) 単元計画

次	学習活動	指導の手出	評価規準
1	① 「さくらいボッチャ」について知り新聞紙でボールを作る。	・新聞紙で作ったボールを見せ興味をもたせる。 ・上手く作れない児童には支援をする。	・新聞紙のボールに興味をもっている。
2	① 新聞紙で作ったボールでいろいろな遊びを自由にする。	・ダンボールの箱、フラフープなどを用意し、自由な遊びができるようにする。	・自分で工夫しながら遊びを楽しんでいる。

3	① 合同で「さくらいボッチャ」の練習をする。 ② 「さんしーぼっちゃたいかい」の進め方を決める。	・やってみたいという子ども達の声大切に合同練習会をする。 ・練習中に出た声から、ボッチャの活動（さんしーぼっちゃたいかい）をする計画を立てさせる。クラスの団結を考えクラス中心に係を決めさせる。	・投げる順番では、自分の意思をはっきりと伝えている。 ・以前の経験を思い出し自分の考えを伝えている。 ・友達の話最後まで聞いている。
	③ 各クラスで係の活動を進める。 先生方を遊びに誘う練習をする。	・上学年の児童が下学年の児童を助け、協力して活動できるようにする。 声の大きさに注意させる。 話型をもとに練習させる。	・自分の考えだけでなく友達の話聞いて行動している。 声の大きさに注意している。
4	① 「さんしーぼっちゃたいかい」を行う。（本時）	・上学年の児童が下学年の児童を助け、協力して活動できるようにする。 ・応援を頑張ることも褒めるようにする。	・ルールを守ってゲームをしている。 ・協力して活動している。 ・応援している。 ・ゲームを楽しんでいる。

（５）本時の指導案

①本時の目標 それぞれの児童が協力して、楽しく活動することができる。

②本時の学習

学習活動	教師の支援
1、前時までを振り返り「さんしーボッチャたいかい」を行うことを確認する。	・前時までの振り返りをしやすいように話をする。 ルールを守り、協力して楽しくぼっちゃたいかいをする。
2 本時の目標を確認する。	・頑張って欲しいことを確認する。
3、「さんしーぼっちゃたいかい」をする。	・各クラスで楽しくできるように雰囲気を盛り上げる。 ・応援を頑張るように支援する。 ・係の活動が不安な児童には支援をするが、なるべく上学年児童が補助するように助言する。
4、先生方にも体験をしてもらう。	・児童が交流級の先生などを誘えるように前もって話し方の練習をしておく。
5、感想を共有する。 ・児童だけでなく先生方にも感想を聞く。	・良かった点を褒めるようにする。